

第3回 朝来市水道事業審議会

令和8年6月25日（木） 14：00～16：00

朝来市山東庁舎2階 第6研修室

会議次第



1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
4. 閉会



1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

4. 閉会

会議次第



1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

4. 閉会

会議次第



1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

4. 閉会

目

次

1. 計画の趣旨

- (1) 水道事業ビジョンの策定
- (2) 水道事業ビジョンの設定期間
- (3) 計画の位置づけ

2. 事業概要

- (1) 水道施設の概要
- (2) 給水人口・給水量の推移
- (3) 給水収益の推移
- (4) 資本費の推移

3. 水道事業の現状評価・課題

- (1) 給水人口・給水量の動向
- (2) 現状評価と課題

4. 水道事業の理想像と目標設定

- (1) 水道事業の理想像
- (2) 水道事業の目標設定

5. 推進する実現方策

- (1) 戦略的アプローチによる方策推進
- (2) 連携と挑戦の取り組み
- (3) 施策実施計画

6. 目標達成にむけて

- (1) 朝来市水道ビジョンの検証

(1) ビジョンの理想像

「水道ビジョン2016」における理想像

「安全」

周辺環境や社会環境の変化に対応し、
水質基準に適合した安全で美味しい
水の供給

① 安全安心な水道水の供給を維持

「強靱」

災害等有事の際にも被災を最小限に
留め、迅速に復旧が可能な、
強く靱かな水道の確保

- ② 基幹施設の耐震化
- ③ 相互援助関係の強化
- ④ 施設管理図の分散化
- ⑤ 避難拠点への耐震給水管の整備
- ⑥ 技術職員の養成

「持続」

いつでもどこでも、安定した供給が
可能で、かつ健全で安定した
水道運営が可能な体制を確保

- ⑦ 実現可能な資産管理
- ⑧ 更新、財政計画の評価、レビュー
- ⑨ 情報提供体制の確立
- ⑩ 官民連携の強化



「水道ビジョン2016」における「安全・強靱・持続」の観点を保持しつつ、
新ビジョンでは「ASAGO」の各テーマへ再整理を行います。

(2) 新ビジョンにおける取組



Aqua

水の価値を未来へ

「設備の強化」

応急給水栓の設置、管末自動監視装置の設置、
クリプトスポリジウム対策等

「水質検査計画の策定と実施」

水道法に従い毎年策定・公表・実施を継続

「水安全計画」

HACCPの考え方を取り入れた水管理の推進

A:Aqua
水の価値を未来へ



Sustainable
持続可能な水道経営

「新技術の導入」

AI等の最新技術を導入することで、
業務効率化等へ資するか検討

「技術継承」

単なる講習への参加やマニュアル整備だけでなく、
官民連携を通じたより包括的な体制で補完・効率化を検討

「環境への寄与」

高効率設備の導入や、照明器具のLED化など、
「できること」から着手

S:Sustainable
持続可能な水道経営



Asset management
計画的な更新・延命

「資産管理の精度向上」

マッピングシステムの機能強化や各種台帳類の情報精度向上

「更新（最適化）計画の検討」

統廃合・ダウンサイジング等も視野に入れた、
広域的な更新（最適化）計画を検討

「更新（最適化）と耐震化の実施」

上記計画に基づく投資事業の実施により、耐震化も確保

A:Asset management
計画的な更新・延命



Governance
確実な事業執行

「ビジョン・経営戦略の見直し」

ビジョン（10年ごと）経営戦略（5年ごと）の改定、
進捗管理によるレビューの実施

「マクロマネジメント」

アセットマネジメント手法の精度向上による事業の全体管理

「広報活用」

市広報やHPへの掲載内容充実、出前講座の実施等により、
市民の皆様の水道事業への理解促進

G:Governance
確実な事業施行

「維持管理体制の強化・補完」

既に民間企業へ委託している業務範囲の拡大を検討
(上水道・下水道一体も視野)

「広域連携の強化」

資機材の共同購入等、
実現済みの内容を土台に、継続的に連携方策を模索

「新たな発注形態の検討」

官民連携方式採用の可能性も視野に総合的な検討



Open partnership
官民連携・広域連携・地域協働

O:Open partnership
官民連携・広域連携・地域協働

（３）新ビジョンの構成

第1章 水道ビジョン改定にあたり

1. 改定の趣旨 1-1
2. 計画期間 1-2
3. 計画の位置付け 1-3
4. 朝来市の概況 1-4
5. 朝来市水道事業の概要 1-5

第2章 これまでの取組状況

1. 前ビジョンの検証 2-1
2. 「安全」の取組状況 2-2
3. 「強靱」の取組状況 2-3
4. 「持続」の取組状況 2-4
5. その他の取組状況 2-5

第3章 将来の事業環境

1. 人口と水需要の予測 3-1
2. 施設と管路の見通し 3-2
3. 財政の見通し 3-3

第4章 将来の理想像と目標

1. 基本理念 4-1
2. 施策方針「ASAGO」 4-2
3. 「A」の実現方策 4-3
4. 「S」の実現方策 4-4
5. 「A」の実現方策 4-5
6. 「G」の実現方策 4-6
7. 「O」の実現方策 4-7

第5章 ロードマップ

1. 事業スケジュール 5-1
2. 計画の点検・進捗管理 5-2

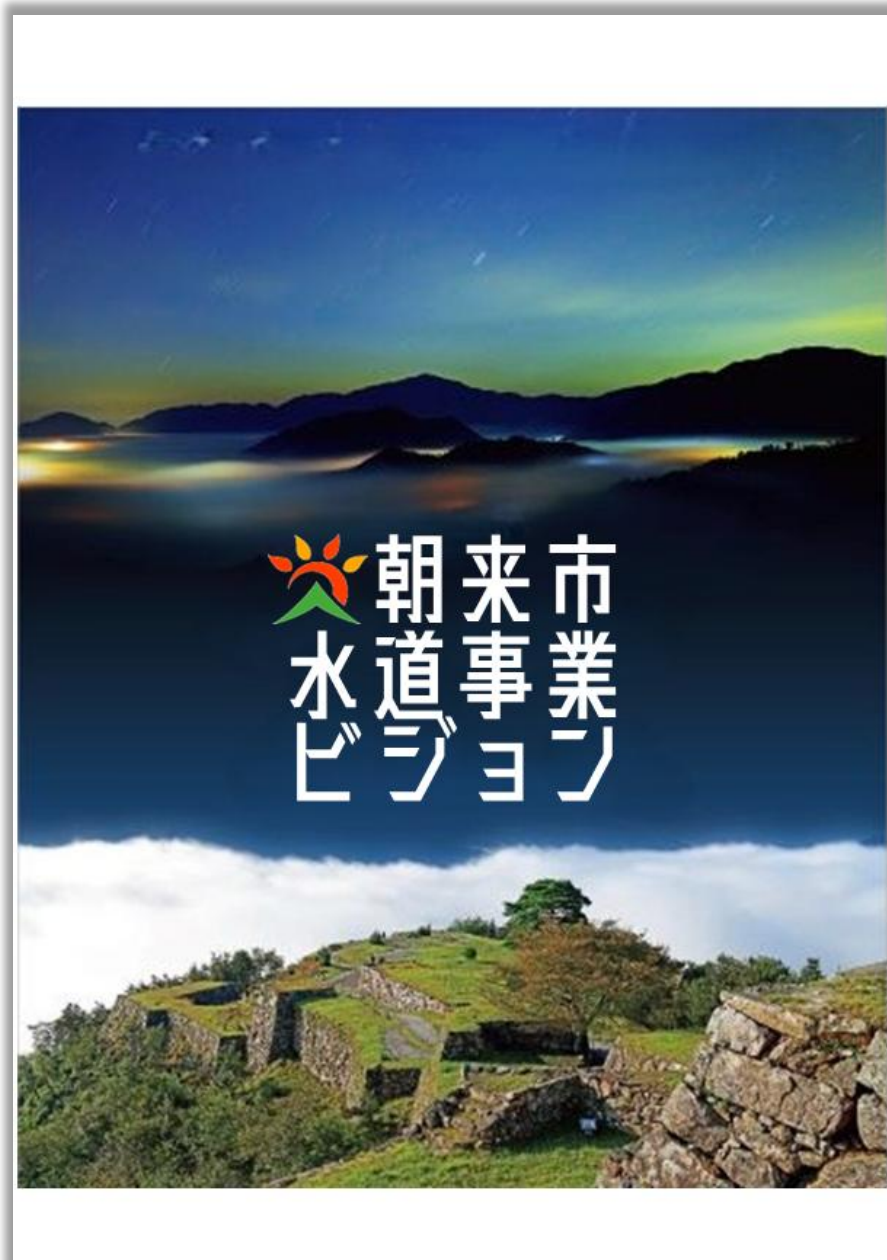
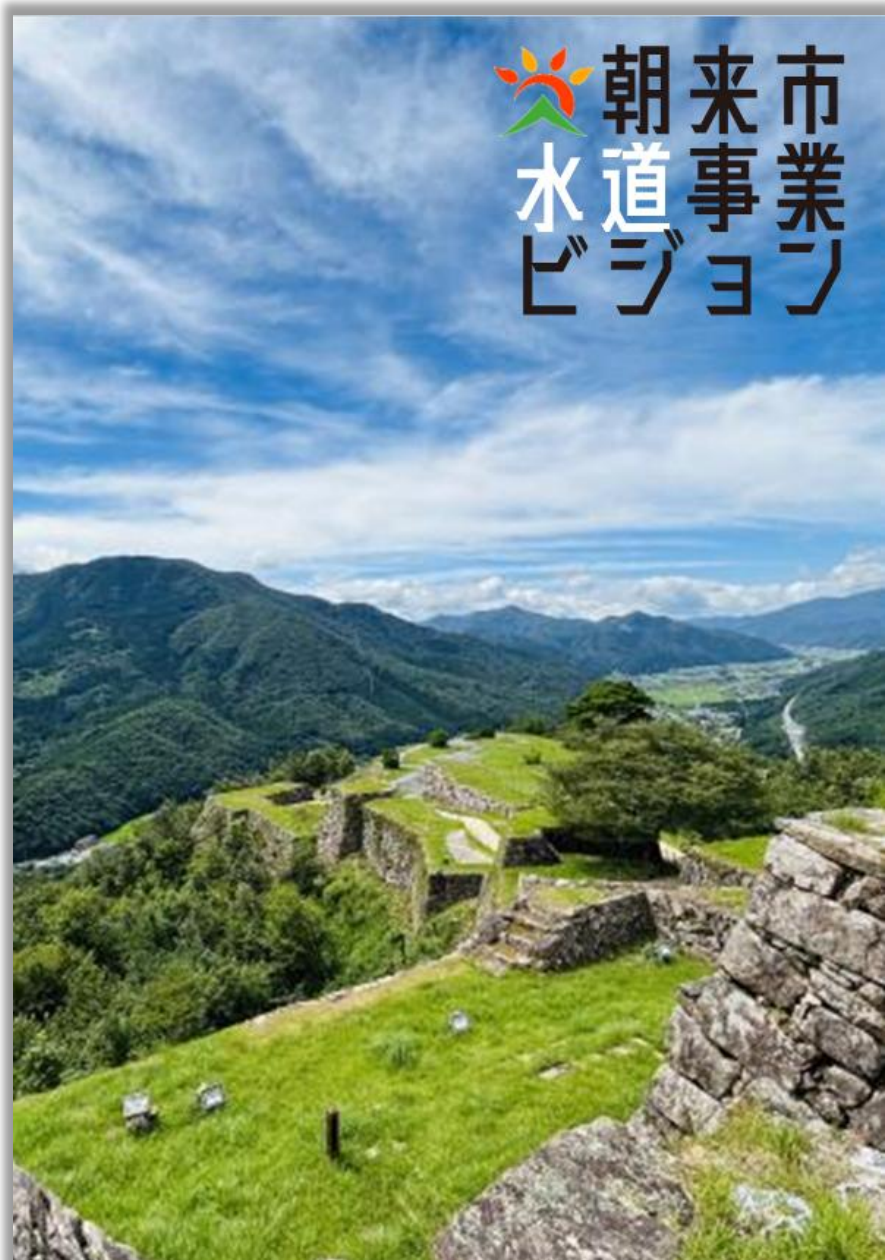
第6章 参考資料

1. 用語解説 6-1
2. 経営比較分析表 6-2
3. PI業務指標 6-3
4. 審議の経過 6-4

現段階での全体構成は上図のイメージです

表紙ビジュアルイメージ

(3) 新ビジョンの構成



(4) 今後の予定

審議会	審議内容	開催予定時期
第1回	事業概要の説明	令和8年2月
第2回	現状の課題・評価	令和8年3月
第3回	理想像と目標設定 推進する施策	令和8年6月
第4回	計画素案	令和8年10月
第5回	計画・概要版最終案、 答申案	令和8年12月

会議次第



1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

4. 閉会

本日は、ご参加いただき
ありがとうございました

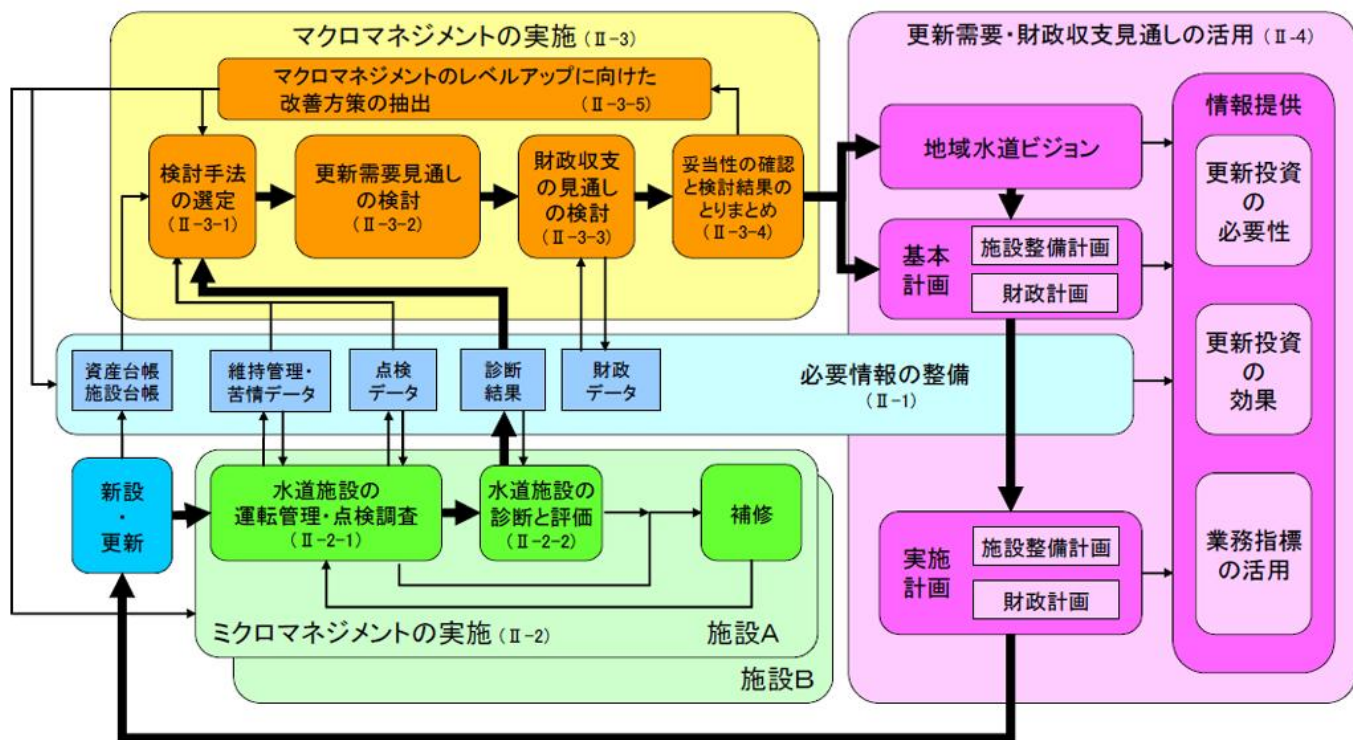


参考資料：用語の説明



用語	説明
高効率設備	稼働時の消費エネルギー（電力等）を最小限に抑えつつ、所定の性能や出力（水量・水圧の確保や水処理能力など）を最大限に発揮するよう設計された機械・電気設備のこと。具体例としてはインバーター制御装置や、高効率モーターポンプなどがある。
ダウンサイジング	従来のものより小型にすること。水道事業においては施設規模の縮小や水道管の縮径などを指す。
HACCP（ハサップ）	Hazard Analysis and Critical Control Pointの頭文字をとったもの。国連機関が発表し、各国にその採用を推奨している食品の安全性確保のための管理手法である。WHOはこの考え方を食品製造だけでなく水道システムにも適用する「水安全計画」を提唱しており、我が国においても厚生労働省及び日本水道協会がガイドラインを提供しており、この考え方に基づく水安全計画の策定が求められている。
マクロマネジメント	水道事業におけるアセットマネジメント手法のプロセスの一つ。各種情報に基づいて、水道施設全体の視点から各施設の優先順位を考慮した上で、中長期的な観点から「更新需要見通し」と「財政収支見通し」について検討すること。
マッピングシステム	水道管（導水管、送水管、配水管等）の配置、口径、材質、布設年度といった管路情報や、バルブ、消火栓、メーターなどの施設情報を、電子地図上にデータとして重ね合わせて一元管理する地理情報システムのこと。

アセットマネジメントの構成



出典：「水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）に関する手引き」（国土交通省）より

アセットマネジメント（資産管理）は、以上4つの要素で構成される。

- ① 必要情報の整備
- ② ミクロマネジメントの実施（個別施設ごとの日常的な維持管理・診断評価）
- ③ マクロマネジメントの実施（施設全体での中長期の更新需要・財政収支見通し検討）
- ④ 更新需要・財政収支見通しの活用